

緊急セクハラ一〇番!

メディアで働く女性のために

7月1日、日本マスコミ文化情報労組会議(MICC) は、日本労働弁護団・女性労働プロジェクトチームの協



力で、メディアで働く女性のための緊急セクハラ一〇番を実施した。女性弁護士二〇名、臨床心理士二名、新聞労連・出版労連・民放労連・全印総連から計六名が相談に応じた。

新聞・通信社では、記者同士の酒席での

同業他社の男性記者からの身体接触、性的冗談やからかい、社内でも結婚や性的指向についてのハラスメントがあるが、仕事が任せられなくなるのではないかとの懸念や加害者からの報復を恐れて会社に相談できないという事例、出版では、職場の男性との性的関係について噂されていたことを辞める時に知りショックを受けるという非正規の方の事例。

の酒席で参加者から性的な辱めを受け拒否すると胸を触られ必死に逃げた、後日、加害男性に謝罪を求めたら「酒席の場のこと」と取り合わなかった、胸を触ったことを吹聴された、相談者自身が「冗談が通じない人間」として取り扱われ不利益を被ったという事例が明らかにした。

放送では、職場の男性から一方的に好意を告げる膨大な数のメールが送られた上に性的関係を強要され、会社などに相談したが対応してもらえず、精神的にダメージを受けたことで会社にに行けず病気になり休職に追い込まれ辞めざるを得なくなった事例、同僚たちと

セクハラがまかり通っていることを知ってほしい、会社には女性蔑視の風土を変えてほしいという切実な声が寄せられた。

労働政策研究・研修機構の調査では、セクハラを受けた人の63・4%が「がまんした、特に何もしなかった」と回答していることから、今回の相談事例は氷山の一角にすぎない。

第55回 全国女性のつどいin熊本

火の国で燃やせ働く女性の底力

～1人のためにできること～



齋田書記長のあいさつ

6月23日、24日の二日間、にわたり第五回となる全国女性のつどいが熊本で開催され、全国各地から一六名が参加しました。全体会では、民放労連の齋田公生書記長が「未来に

全体会&基調講演

ついて学べる勉強会。将来に向けて、少しでも役に立つ形で持ち帰ってほしい」と挨拶、RBCビジョン労組の照喜納萌子さんは女性契約社員の雇止めを組合の団結力で会社に撤回させた成果について報告しました。基調講演では「赤ちゃんポストはそれでも必要です。子どもは未来の宝」をテーマに、元



基調講演・田尻由貴子さん

慈恵病院看護部長の田尻由貴子さんが命の教育の大切さを訴えました。田尻さんは、今でも論争が尽きない赤ちゃんの命の尊厳を巡る議論のきっかけとなった「この通りのゆりかご」、赤ちゃんポストの開設に携わった看護師

で、講演はこれまでの活動やデータを元に、女性である私たちに「赤ちゃんの命を巡る問題とは何か？」を問いかける内容でした。マスコミに身を置く者として省みるべく、現在、性を娯楽の一種として扱う風潮が多いように感じます。表現である以上、性をどのように扱うかは自由であるべきです。健康な性の情報を伝えることも忘れてはならないと思います。子育てや出産の悩みを誰にも相談できず、孤

分科会①

女性・ママとして今、わたしたちにできること

ママ防災士 柳原志保さん

講師は、東日本大震災、熊本地震と二回の大地震を経験した防災士の柳原志保さんでした。風水害はある程度の準備の時間がありませんが、地震は急に起こります。そのために、津波の速さを知ること。普段よく通る道のどこに公衆電話や消火栓、AEDなどがあるのか、気づける目を持つことも大切です。「日常の中で、これは備えにつながると気づくと防災は楽しくなる」というヒントもありました。たとえば、「冷凍庫にある食材を自然解凍すればいざという時に役立つ」「ハサミで調理すれば非常時にも便利」「カセットコンロで調理することも役立つ！」など、日常の延長に災害に役立つ物がたくさん

分科会②

7男3女！岸さん一家 信子母さんの子育て術

岸 信子さん

子育ては我慢の連続。自分のペースで物事が進まず、小さい不満が山積みで、イライラの毎日。七男三女の母、岸信子さんも、子ども三人を年子で授かった新米ママの頃はそんな状態だったそう。ターニングポイントは、友人からの「今をしっかりと楽しんでね」という言葉。それまでも五〇人以上の子育ての先輩から「今が一番良いときね」と言われていた。イライラの毎日が、本当は楽しい毎日なのか。その言葉の真意を考えるよう



サンバ版「おてもやん」を踊る！

分科会③

自分を知って、もっと元気にイキキと！

漢方専門医 渡邊賀子さん

約半数が抱える「なんとなく不調」。うち約七割が「病気ではない」「我慢できる」等の理由で何もやってないとのデータ。女性に多い「冷え」。筋肉量の違いによるもので、男性の方が快適と感じる温度が3度低いと言われています。また、男女差はホルモ

分科会④

夢を叶える

ライフプラン

ファイナンシャルプランナー 持鳥弘子さん

「ファイナンシャルプランナー」だった。「ライフプラン」を夢の実現のために貯蓄していかねばならぬと思った。さらに先生は最後に印象的な言葉を残してくれた。「国の制度を知らない」と。もう自己責任でお金を守らなければいけない」「ドキッとすると言葉だった。私が年をとるときには年金はないだろうと漠然と思っていたのも、お金を自分で守る制度はいくらでもある。NISAにiDeCo。聞いたことがない訳ではない。ただまだ知らずに怖がってやらなかっただけ。知らないで損するとは怖いことだ。賢く堅実に夢は大胆に叶えていきたい。」

分科会⑤

それぞれ違う立場の周りとも分り合える自分らしい働き方とは

産業カウンセラー 白梅英子さん

働き方改革は職場で進んでいますか？という質問の問いに、参加者は多少困惑しているようでした。進んだが仕事のペースが崩れた、現実的には何も変わらないという声も聞かれました。困惑している理由として、上と下を押し、下がぶよぶよだったら疲れているサイン、舌の色や形も体調で変化するそうです。会場で煎じたドリンクも振舞われ、自分を知って、もっと元気に生き生きと過ごしてほしいとエールを頂きました。

分科会⑥

ハラスメントの二次被害を許さない

弁護士 松浦恭子さん

女性の権利問題などを扱ってこられた松浦恭子弁護士を講師に迎え、「セクハラはなぜ生じるのか」「社会におけるセクハラへの認識」について、参加者も自身の経験や考えを発言しながらは進みました。男性側の鈍感さや思い込みでの行動から生じると思われるセクハラですが、松浦先生から見るとそれは社会に根付いている見えない上下関係が生み出しているものといえます。男性は、自身の立場を脅かす存在ではない者（女性）に対して相手の心情を慮る必要がない、「上司の奥さんや娘と同じことをするか」という問いはまさにそれを表しています。

女性側をみれば「女子力」

女性のつどい (二日目) 熊本地震被災地見学ツアー バスで被災地を まわるツアー



阿蘇大橋崩落現場

バスツアーで、2016年4月に起こった熊本地震の被災地を巡りました。ツアーガイドは熊本県民テレビの城戸さんです。はじめに熊本城を車窓からなが

まわるツアー

め、石垣や門が崩れているなどの説明を聞きました。次に南阿蘇村の阿蘇大橋

の崩落現場で、崩落の状況や崩落の際に橋を渡っていた犠牲になった大学生の話、すぐそばにある東

海大学阿蘇キャンパスに通っていて犠牲になった多くの大学生の話など、詳しく説明していただきました。

続いて訪れたのが、地震で深刻な被害を受けた南阿蘇鉄道の無人駅「長陽駅」。ここま

で電車は来ていないが、駅舎が「久永屋」というカフェになっていきます。ご主人が焼くシフォンケーキやマフィンがお勧めというこ

と。昼食は、西原村の物産館「萌の里」郷土料理のご汁定食をいただきました。萌の里では地元物産や野菜なども数多く販売しているのので、参加者はお土産を多数購入していきま

した。最後に訪れたのが、阿蘇くまもと空港近くにある、益城町のテクノ仮設団地です。この仮設団地は五二六戸と県内最大規模とのこと。仮設団地での生活などの説明を聞きました。

短い時間の中で効率よく被災地を巡る企画を立て、実行してくださった地元のみなさま、本当にありがとうございました。

(民放労連 加藤美奈子)

ボランティアガイドによる

熊本城案内&周辺散策

熊本城周辺散策コースは前日の雨が嘘のような快晴の中行われた。個人的に大学生の時に熊本城に行ったことはあったがそのときの姿は見る影もなくなってい

た。最後に訪れたのが、阿蘇くまもと空港近くにある、益城町のテクノ仮設団地です。この仮設団地は五二六戸と県内最大規模とのこと。仮設団地での生活などの説明を聞きました。

短い時間の中で効率よく被災地を巡る企画を立て、実行してくださった地元のみなさま、本当にありがとうございました。



修復中の熊本城と

うである。

追い打ちをかけるようにこの女性のつどいの直前の6月19日、20日の大雨で元太鼓櫓が倒壊した。熊本城の中で有名な場所として大小二つの天守閣がある。この二カ所も被災しているが、小天守閣が入場できるようにするのは一年後、大天守閣は三年後と改修が比

較的進んでいる。しかし熊本城敷地内全体の復元には二〇年ほどかかるそうだ。

今回ご案内いただいたガイドさんの気持ちのこもった説明を聞き熊本城への興味が以前よりも高まった。三回目に訪れる際には未来へと前進するシンボルとしての熊本城を見たい。

(民放労連青年協議会)

菅原翔

女性協拡大常任委員会

セクハラ問題の講演も



7月7日(土)、東京・

民放労連本部の会議室で、民放労連女性協拡大常任委員会が開催されました。西日本各地で発生した記録的豪雨の影響で、九州地連や中四国地連のメンバーは欠席となり、関東地連を中心に二〇名が参加しました。まず、各地連より、20



講師の松元千枝さん

会議の後半は、新聞労連でも活動されているフリージャーナリストの松元千枝さんに講演して頂きました。松元さんはこれまで、労働・女性問題などを取



材してこられ、前財務次官のセクハラ問題を受けて設立された「メディアで働く女性ネットワーク」の代表世話人もされています。

「横のつながり」を作ったいちばんの目的は、「女性にとって安全な職場環境を訴えていくこと」だと言います。ただ、女性の権利を

主張するだけではなく、「多様な視点」を大切にしてこそ「国民の知る権利」にこたえられる、といった考え

の重要性も語ってくださいました。メディア業界が古くから抱えてきた「セクハラ」問題についても議論となりました。今後女性協の会議では、この問題を議論し、共有し、解決につ

なげていきたいと思えます。

結びに、先月の「全国女性をつどい」では、熊本県民テレビ労働組合を中心に九州地連の皆様、ありがとうございました。

来年は北海道での開催となります。皆様の参加をお待ちしております。